

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表日	2024年3月31日	事業所名	ひばりジュニア 田川ひだまり
-----	------------	------	----------------

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			・当日の利用人数によって、事故防止の為、バギーの移動、活動の工夫を行っている。	・児童が成長し、援助距離も大きくなっている。事故のないよう、不良姿勢等の研修を行っている。 ・当日の利用状況によっては事故のないよう活動内容を変更している。
	2	職員の配置数は適切である		○		・送迎等で、人員が足りない時は各クラスからの応援体制を整えている。	・職員がどのクラスでも支援が出来るように、情報共有と連携を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・外部からの研修や社内研修など沢山あり、勤務時間の相談をし参加出来るようにされている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・各児童に担当者がおり、6ヶ月毎にモニタリング、アセスメントを行っている。	・アセスメント結果をみて職員間で振り返りを行い、支援に生かせるよう支援に努めています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・プログラムを個別化しみえる化の工夫。 ・インターネット等を活用し、活動の内容の工夫を行っている。	・職員研修を行い、活動内容に生かせる内容の研修を行って行く。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・児童の特性に合わせて、プログラムの見直しを適宜に行っています。	・特性の把握のため、同じプログラムを実施し、アセスメントすることもあるが、児童が楽しみながら出来る活動プログラムを心がけている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			・平日には曜日による細かなプログラム、休日は利用者様が楽しめるプログラムとメリハリのある支援を心がけている。	・個人個人の課題の把握をし、支援出来る様、職員間で情報の共有をしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			・児発管が職員と情報共有し、利用者様の課題やニーズに合わせた計画を作成している。	・今後も利用者様、保護者様のニーズに合わせて計画を行っていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・月2回のクラス会議、適宜に支援の振り返りを行っている。	・支援終了後、支援の振り返りを行い、次に生かせるよう努めています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		・毎日行うようにしているが、出来ない日もある。	・毎日出来る様努力していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・週案の記録を行っている。	・週案をもとに、モニタリングを行っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・職員間でモニタリングを行なって計画の見直しの判断をしています。	・職員の情報と児発管の判断のもと適宜に見直しを行う。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている		○			・職員全員がガイドラインの周知・再確認できる研修などを行っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・担当職員と児発管が参加	・今後も利用者様の様子がきちんとお伝え出来、安心して利用できる様に、意義のある会議を行っていく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			・主に児発管が行なっている。	・関係機関との連携を適宜に行っていきたいと思えます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		・主治医の意見書、指示書をもとに、看護師が中心に行っている。	・今後も、主治医、ソーシャルワーカーと連携し、支援を行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			・情報の共有、引継ぎを行っています。	・利用者様が、安心して社会生活が出来るようにサポートしていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			・情報の共有、引継ぎを行っています。	・利用者様が、安心して社会生活が出来るようにサポートしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				・今後、連携していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		・今後は機会を作っていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○				・通所事業所の話し合う場に参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・6ヶ月毎の担当者会議、必要時には面談を行っています。	・今後も、保護者様とのコミュニケーションをとっていきます。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・契約時に説明している。	・契約時に説明するが、保護者会等で再度、把握して頂けるようにつとめていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・必要時には面談、電話での相談支援を行っている。	・今後も保護者様が相談しやすい雰囲気作り、また関係性が深まるよう努力していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				・保護者会、夏祭り等、年2回は行っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			・本年は夏祭りに近隣の方を招待した。	・今後も継続して行っていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			・マニュアルを作成	・マニュアルの内容、年二回の訓練内容の報告をしっかりと行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・年二回訓練を行っている。	・マニュアルの内容、年二回の訓練内容の報告をしっかりと行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				・適宜に保護者様からご連絡を頂き、調理員との情報共有を行って、支援につなげています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			・研修を行い、事故の内容をまとめています。	・事故があった場合は、ヒヤリハット報告書を作成している。